

## 2011 年度大会記録

2011 年度は、3.11 東日本大震災のため、当初 6 月に東京国際大学で予定していた研究大会の開催を変更し、12 月に京都光華女子大学にて実施することとなった。「国内外環境の流動化と言語問題」の大会テーマのもと、震災時における情報弱者の課題、国内のオールドカマーの言語教育並びに、多元化をめざすヨーロッパ言語教育政策の現況など充実したプログラムを、多くの会員諸兄のご協力とご参加のもとに実施することができた。関係各位に深く感謝申し上げます。 (西山教行)

## 日本言語政策学会 2011年研究大会

日 程：2011 年 12 月 3 日（土）～ 12 月 4 日（日）

会 場：京都光華女子大学 (<http://www.koka.ac.jp/accessmap.html>)

大会テーマ：「国内外環境の流動化と言語問題」

会員参加費：500 円 一般参加費：3000 円 \* 予稿集を含みます。

### プログラム

12 月 3 日

13 時～ 17 時

【1 号館特 2 教室】

12:00	受付	
13:00	会場校挨拶	一郷正道 (京都光華女子大学学長)
	会長挨拶	田中慎也 (日本言語政策学会会長)
13:15～13:45	基調講演	田中慎也 (日本言語政策学会会長)
14:00～17:00	パネルディスカッション	
	「日本社会における情報弱者とは何かー東日本大震災からの示唆」	
14:00～14:45	講演 1	梶茂樹 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

- 14:45～15:30 講演2 石田英敬（東京大学大学院情報学環）  
15:30～15:45 休憩  
15:45～17:00 パネルディスカッション  
ディスカッサント：梶茂樹、石田英敬、田中慎也  
司会：木村哲也（帝京大学大学院）  
17:30 懇親会（京都光華女子大学学内食堂、会費4000円）

12月4日

9:30～11:30 一般発表

【聞光館252教室】 司会：本多弘之（杏林大学）

「移住者に対する第二言語教育と教師養成—ドイツ調査から見たこと—」

松岡洋子（岩手大学）

「北東アジアにおける高等教育の国際化・地域化と言語」

嶋内佐絵（早稲田大学大学院生）

「台湾におけるニューカマー対象の言語教育制度」

許之威（京都大学大学院生）

「iPod touchの手話アプリに見られるろう者軽視の方向性」

鈴木理子、佐々木倫子（桜美林大学）

【聞光館253教室】 司会：細谷美代子（筑波技術大学）

「北海道倶知安町の言語景観について」

山川和彦（麗澤大学）

「ソフトウェアのローカライゼーションに関する社会経済的分析と言語政策的意味の考察」

上村圭介（国際大学）

「小学校国語教科書で学ぶ『思考力』は世界に通用するか」

五十川敬子（帝塚山大学）

【聞光館254教室】 司会：仲矢信介（東京国際大学）

「『クール・ジャパン』政策と日本語普及政策」

平畑奈美（滋賀大学）

「自国語の国外普及をうべなう論理－国際交流基金と国家汉办」

山本冴里（早稲田大学大学院生）

「言語・教育政策研究者の研究姿勢と社会的役割についての再考察」

杉野俊子（工学院大学）

13：00～13：15 総会

【徳風館 6 階小講堂】

13：15～14：15 講演

「欧州評議会から外国語の教室へ：言語・文化の多面的アプローチの長い歩み」

ミッシェル・カンドリエ（フランス・メヌ大学）（通訳：西山教行 [京都大学]）

14：30～17：00 シンポジウム

「移民コミュニティの移民言語教育－オールドカマーを中心に」

パネラー：陳於華（中京学院大学）、李洙任（龍谷大学）、柳美佐（京都大学大学院）

コメンテーター：庄司博史（国立民族学博物館）

司会：オストハイダ・テーヤ（関西学院大学）